



しょう乳洞^{にゅうどう}は、何^{なん}のはたらきでできるの

地下水^{ちかすい}のはたらきでできる

しょう乳洞^{にゅうどう}は、石灰岩^{せっかいがん}でできた山^{やま}の中^{なか}や、地下^{ちか}にできた洞窟^{どうくつ}です。しょう乳洞^{にゅうどう}ができる所^{ところ}は、おもに、石灰岩^{せっかいがん}でできた地域^{ちいき}に見られます。

地上^{ちじょう}に降^ふった雨水^{あまみず}の一部^{いちぶ}は、地下^{ちか}にしみこんで、地下水^{ちかすい}になります。降^ふった雨水^{あまみず}には、空気^{くうき}中の二酸化炭素^{にさんかたんそ}がとけこんでいて、地下水^{ちかすい}は、弱^{よわ}い酸性^{さんせい}になっています。

この地下水^{ちかすい}が、地下^{ちか}の石灰岩^{せっかいがん}を少しずつとかしていき、長い年月^{ながねんげつ}の間^{あいだ}に、大きな穴^{あな}をあけます。これが、しょう乳洞^{にゅうどう}です。

しょう乳洞^{にゅうどう}の内部^{ないぶ}

しょう乳洞^{にゅうどう}の内部^{ないぶ}には、つららの形^{かたち}など、いろいろな形^{かたち}のしょう乳石^{にゅうせき}があります。また地下水^{ちかすい}があつまって、川^{かわ}となってながれている所^{ところ}もあります。

しょう乳洞^{にゅうどう}の天井^{てん}じょうやかべから、しずくとなって落ちてくる、地下水^{ちかすい}にふくまれているものが、少しずつ固まり、長い年月^{ながねんげつ}をかけて、つららの形^{かたち}などをした、しょう乳石^{にゅうせき}になります。

しょう乳洞^{にゅうどう}は、日本^{かくち}の各地^{いわたけん りゅうせんどう やまぐちけん しゅうほうどう こうちけん}にあります、岩手県^{いわてけん}の龍泉洞^{りゅうせんどう}、山口県^{やまぐちけん}の秋芳洞^{しゅうほうどう}、高知県^{こうちけん}の龍河洞^{りゅうがどう}は、特に有名^{とく ゆうめい}です。（監修・国司 真）

しょう乳洞^{にゅうどう}の内部^{ないぶ}

